# 令和５年度　第２回　四街道市教育振興基本計画策定委員会会議録

開催日時　　令和５年７月２０日（木）10:00～12：00
場　　所　　市役所第二庁舎　第２会議室
出席委員　　小宮山副会長、上田委員、鈴木委員、後藤委員、神田委員、中島委員、山岸委員
　　千脇委員、花井委員、米家委員
欠席委員　　江崎会長、福田委員、能村委員
事 務 局　　教育部：府川教育長、石川部長、真田副参事
　　教育総務課：久保木課長、小安係長、久保主事
　　学務課：飯村課長
　　指導課：伊藤課長
　　社会教育課：荒木課長
　　スポーツ青少年課：小川係長
　　青少年育成センター：米村所長
傍 聴 人　　３名

会議次第
１．開会
２．教育長挨拶
３．副会長挨拶
４．議題
　・第２期四街道市教育振興基本計画の施策等について
５．その他
６．閉会

議事
議題「第２期四街道市教育振興基本計画の施策等について」
教育総務課　　（資料１説明）
小宮山議長　　資料１について、質問や意見等はあるか。
山 岸 委 員　　計画策定スケジュールが変更された理由は何か。
教育総務課　　施策の細かい内容について、事務局における検討・調整になお相当の時間が必要と判断し期限を延長することとした。重要な部分であり時間をかけて進めたい。
山 岸 委 員　　丁寧に策定しているということで、理解した。
教育総務課　　（資料２説明）
小宮山議長　　資料２について、質問や意見等はあるか。
上 田 委 員　　主な取組一覧を見ると、全体を通して学校が担う部分が多いと感じる。体験活動、人権教育、命の教育等の活動は学校が担うもので、週に１時間しかない特別活動の枠で行う必要がある。施策４「社会参画意識の向上」に「特別活動の充実」の記載があるが、特別活動というのは、そもそもキャリア教育、食育、体験活動等

を行わなければいけない中で、ここに特別活動の充実を記載するのは違和感がある。また、施策５「国際理解教育の推進」に「カリキュラム・マネジメントの充実」の記載があるが、カリキュラム・マネジメントというのは国際理解教育だけでなく、各教科と言われる通知表の評定が出るもの以外の学びも含めて学校として策定していくものなので、それをここに記載するのは違和感がある。国の計画を見ると、ウェルビーイングや非認知能力など今後新たに学校が取り組まなければならない業務が増える見込みであり、現場に余力を残した計画にして欲しい。英語教育、情報教育、ＧＩＧＡスクール構想など、この５年間で様々な取組が増えている。学校が担う役割を精選して欲しい。今日は終業式だったが、学校によっては午前中に授業をしてから終業式を行ったり、終業式の後に授業をしている実態がある。教職員の働き方改革を進めるに当たり、事務処理的なものだけでなく、教育内容についても少し整理して頂きたい。

小宮山議長　学校現場ではやることばかり増えており、減らせるものがなかなかないため、先生方は大変な思いをしていると思う。これについて事務局の意見を伺う。

教育部長　資料に記載している施策や事業は、全体を体系として整理しきれていない。現状行っている事業を基本として各基本目標に当てはめた場合に、どのような形になるかイメージしたものと理解して頂けたら有難い。その結果、今ご指摘があったような違和感が散見されているということについては、率直なご意見として受け止めたい。先ほど話のあった国の計画に関して、今回の計画を策定していく上での視点の一つにウェルビーイングの達成を目指すことを盛り込んでいる。一人一人が健康で幸福な状態がどのような状態かということは、個人の価値観によるものが大きい。個人の価値観は、それぞれがどのように学んできたか、どのように体験してきたかということが作用していくため、どうしたらそういった内容がより充実したものになっていくのか考えているところであるが、まだ形として見えにくい状態となっている。もう一つ、非認知能力、例えば、粘り強くやる力、人と人との関りに関して相手意識を持ちながら自分の考えを適切に伝えていくこと、自分が目指すものに対して今自分がいる状況を的確に把握しながら何をしていったらいいのかというのを認知していく力などは、学校教育の中で育成を目指すべき資質・能力として、現行の学習指導要領に示されている。教育委員会としては、学校がそれらを実現していくための支援を考えていきたい。ぜひ忌憚のないご意見を頂きたい。様々な提案等があると思うが、大事なことは、その意図や狙いが何であるのかを抽出することであり、ここで示されたことをそのままやろうとするのではなく、そこで狙っていることを把握し、バランスよくまとめていくことが大事だと考えている。

上田委員　示し方にも工夫が必要と感じた。例えば「体験活動」について、見るからにこれは体験をしているなという活動もあれば、理科の実験のような体験を含んだ授業もある。「体験活動」と「体験を含んだ授業」では、受け手の印象が違ってくるため、学校の教育活動に踏み込んでいく中では、地域や保護者の方々に理解を得られる表現にしてもらいたい。

小宮山議長　既に学校が進めている取組もあるため、広く捉えられる表現を検討するほか、ウェルビーイングの実現にむけても、フレキシブルな考え方で取り組んでいく必要がある。教職員の働き方改革に関連して、国が示している部活動の地域移行について、今後の構想はあるか。

指　導　課　部活動の地域移行については、当市でも動き出している。中学校の先生方と教育委員会の間で検討会を設けている。今後はスポーツ青少年課が主管課となり、地域の方と協議を重ねながら、四街道市において持続可能な部活動の地域移行の在り方について検討していくこととなっている。まずは休日の部活動を地域クラブに移行し、週末は先生方が休めるようにしていきたい。

山 岸 委 員　上田委員のおっしゃることは本当に大事だと思う。現状の表現だと、学校がカリキュラム編成をうまくやるといいという風に捉えられかねない。教職員の働き方改革は、学校が全て自己管理で行うのではなく、教育委員会が支援するということを明示して欲しい。

小宮山議長　非常に重要な話だと思う。要望として理解した。

山 岸 委 員　広範囲で多岐にわたることだが、障がいという言葉が出てきていない。これは特別支援の中に入っているのか。障がい児や障がい者となってくると、特別支援だけではないと思う。また、マイノリティの方々について、例えば性的少数者についても言葉が出てきていないので、キーワードとして挙げた方が良いと感じた。「外国籍児童生徒」の表記について、対象が限定されてしまうため、「外国にルーツのある児童生徒」の様に包括性のある表現にした方が良いと思う。

指　導　課　障がいのあるお子さんは、学校教育の中では特別な支援を必要とする児童生徒として特別支援教育の中に入っている。

上 田 委 員　学校教育の中では「特別支援教育」を行っているが、その子たちが学校から出た後の支援や理解をどう進めていくかというご意見だと思う。また、外国籍児童生徒の支援も同様に、学校では日本語指導等を行っているが、子どもたちが中学校を卒業して、様々な進路に進んだ後の支援も大切だと思う。

米 家 委 員　上田委員のおっしゃる通りで、学校教育の分野が多過ぎると感じた。学校だけでなく、ボランティア団体や地域の活動グループが担える部分もあると思う。今回私たちも意見を出させて頂いたが、具体的な取組について、どういう未来を描けば良いかアイデアを出すのはなかなか大変で時間のかかることだった。私たちが提出した意見の意図を汲んで施策に反映していく作業はとても大変だったと思う。ただ、これを学校の先生方が見たときに具体的過ぎてがんじがらめになってしまう様に感じたというのも本当にその通りだと思う。今出ている意見一覧の大きなストリームを、どこに向かっているのかを考えながら、学校自身もアイデアを出していける様な余裕のある計画を立てないといけないと思う。地域の人達を頼りにして欲しい。

山 岸 委 員　色々なことをやろうと「充実」を目指すことはいいことだが、子どものためを思うと、どんどん増えてしまう。「子どものために」と「先生のために」の視点の間で一種の逆説的なことが起きており、気を付けないと先生方の負担が大変なこ

とになってしまう。双方のバランスに気を付ける必要がある。

米家委員　家庭の教育力が落ちているという話があるが、家庭によってできる家庭、できない家庭があるのではないかと思う。家庭だけに子どもの教育を押し付けないことが大事かなと思う。

教育総務課　障がいやマイノリティの記載については、今後検討する。

山岸委員　言葉として出すと、出さなかった言葉に対して差別感が出てしまう可能性があるので、表現方法には気を付けて頂きたい。

花井委員　今の件に関連して、施策９「多様な価値観を認めあう」について、学校教育だけでなく、社会教育においても積極的な取組を期待したい。少数派の視点を市民が持つ取組があればいいと思う。自分の価値観と異なる人が沢山いることを伝えて欲しい。また、家庭教育の支援について、今年の４月にこども基本法が施行されており、これを周知することが大事だと思う。先日テレビで、小学校も中学校も通わずに生活してきた２８歳の方が、現在夜間中学に通っている様子が放送されていた。そういう家庭もあるのだということに驚いた。不登校だけでなく、学校の制度からもれてしまっている人もいると思う。

後藤委員　子どもが小学校の特別支援学級に通っている。入学するときに、特別支援学校と特別支援学級のどちらにするかとても悩んだ。特別支援学級を選択し、地域の中で成長する子どもの様子を見て、地域で子育てすることの大切さを実感している。特別支援学校となると、通学に時間がかかり、交通の面で不便だと思う。また、コロナ前と比べて、特別支援学級の子どもたちが増えていると感じている。特別支援学級は定員が限定されている中で、教室に余裕のない学校はどのように対応しているのか気になる。特別支援学級の子どもと接点を持つことは、通常級に通っている子どもたちの学びにも必要なことだと思う。空き教室がなくて、特別支援学級に入れない子どもはいないのか。

小宮山議長　特別支援教育の充実に関して、事務局では具体的な取組をどのように想定しているか。

指導課　特別支援学級に通われているお子様の人数が増えているというのは、統計からも分かっており、本当にそのように感じている。後藤委員の話にあった様に、学校によっては、教室の確保が難しいという話も聞いているため、個々の実情に合わせて支援ができるように私たちも感度を高く持っていきたい。また、特別支援教育は特別な支援が必要なお子さんたちの自立に向けて、支援・指導していく教育だが、今話題に出ている様に、周囲の子どもたちや地域・保護者の方々への啓発をどの様に進めていくかということも大きな要素の一つであり、そちらの方にも力を入れていきたい。

千脇委員　私が子どもだった頃から考えると、学校教育の内容がものすごく増えているのではないかと感じる。米家委員が言ったように、地域の団体ができることは沢山あると思う。以前、学校の家庭科の支援に行った際、通常級の子どもたちが特別支援学級の子どもたちをサポートしながら一緒に学んでいる姿を見て、こういう経験が子どもの頃から必要であると感じた。区別した言い方になってしまったら申

し訳ないが、小さい頃から障がいを持った方たちと一緒に育つ環境は大切だと思う。また、市内には１クラス４０人の学校と、２０人前後の学校がある。そこの整備は、教育委員会として考えているか。地域の実情もあると思うが、そういうところを整備することで、子どもたちが健やかに育てる環境が作れたらと思う。

教　育　長　　地域ができることは沢山ある、学校も地域と連携して教育活動をやっていくのがいいのではないかというご意見について、基本目標２に「地域とともにある学校づくり」を掲げている。現在、中央小学校をモデル校として学校運営協議会を立ち上げ、学校運営について、どのように教育課程が実施されていくのが望ましいか地域の人たちと直接議論し学校経営に参画して頂くコミュニティ・スクールを推進しており、今後５年間で市内の全小中学校に広げる計画をしている。学校の適正規模適正配置については、四街道市のまちづくりに直結する非常に大きな課題であり、市長部局と連携しながら議論を進めている。

山岸委員　　学校に地域の人が参画することについて、気を付けないといけないのは、学校がやることが増えてしまうこと。そうならないようにして欲しい。国はコミュニティ・スクールの実施を努力義務とし、地域と学校が一緒に取り組むと定めているため、学校がやることは増えていくと思う。

千脇委員　　一緒にやるというよりは、子どもたちと地域の橋渡しを学校にして頂ければ良いと思う。例えば、子ども会では様々な活動を行っており、これを学校から子どもたちにお知らせする。他にも色々な団体があるので、その活動を学校から子どもたちにお知らせする。それだけで、子どもが地域の中で活動する場が増えていくと思う。また、市内では学童ルームと保育所がものすごく増えている。子どもが一定の場所に拘束される時間が長くなっていると感じており、地域と連携することで活動の場が広がるのではないかと思う。

神田委員　　学校の負担軽減について、ＰＴＡでも様々な行事を実施しているが、保護者として先生方と交流したい気持ちと、休んで欲しい気持ちで葛藤している。個別の事業について、以前行っていた交換留学制度はこの計画に載らないか。

事　務　局　　交換留学制度については、教育委員会の所管ではなく、市長部局が実施する事業となっている。

後藤委員　　特別支援学級の学習は、通常級のお子さんからするととても楽しそうで、どうしたらその活動ができるのかと、低学年ほど思う傾向がある。子どもたちがやりたいと思う学習が特別支援学級には沢山あり、工夫次第で通常級でも実施できる活動があるのではないかと思う。

上田委員　　学校では、やらないといけないことが法で定められており、楽しい体験をさせてあげたくとも、決められた時数の中で実施するには難しい。その辺も、学校が担うのではなく、地域に広げていけると良いと思う。学校が、地域と子どもの橋渡しをするという点については、学校が誰に連絡を取ればいいのかが分かる手順が欲しい。学校を経由せず、ダイレクトに地域に広げたほうが早いと感じるものも多くあるため、取扱をよく整理して欲しい。

米家委員　　委員提案６について、社会教育課で出前講座を実施しているのは知っているが、市民

団体のやれることと、学校側のやってもらいたいことを調査してバンクの様なものを作るのはどうか。グループとグループの橋渡しをして欲しい。また、各委員提案について、委員の皆さんがどういう思いで提案したのか伺いたい。

千 脇 委 員　施策の中に「団体の支援」という言葉があり、支援の内容は具体的に示されていないが、補助金の交付だけではない活動の支援を考えて欲しい。また、市民の方から、子どもの活動に関わる団体や活動場所をまとめたサイトが求められているのでぜひ作って欲しい。

花 井 委 員　提案のあった内容について、今後どのように計画に反映していく予定か。

教育総務課　委員提案の全てをそのままの形で実現することは難しいと思うが、意図を汲み取り、今ある事業の中に落とし込んでいくなどして、取り入れていきたいと考えている。

山 岸 委 員　流れとしては、その内容が１０月の会議に議題として出てくるのか。

教育総務課　１０月の会議で案を示し議論頂く予定である。最終的な結論は、１１月の答申の段階で審議会として意見をまとめていく。また、各委員提案に対する趣旨については、今後直接担当課からご連絡させて頂きたい。

小宮山議長　その他、質問や意見等はあるか。ないようなので、以上で議題を終了する。